

## 水菓子屋の要吉

木内高音

要吉は、東京の山の手にある、ある盛り場の水菓子屋の小僧さんです。要吉は、半年ばかり前にいなかからでてきたのです。

要吉の仕事の第一は、毎朝、まっさきに起きて、表の重たい雨戸をくりあげると、年上の番頭さんを手伝って、店さきへもちだしたえんだいの上に、いろんなだものを、きれいに、かざりたてることでした。それがすむと、番頭さんがハタキをかけてまわるあとから要吉は、じよろで、水をまいて歩くのでした。ろう細工のようなりんごや、青い葉の上にならべられた赤いいちごなどが、細かい水玉をつけてきらきらと輝きます。要吉は、すがすがしい気もちで、それらをながめながら、店さきの敷石の上を、きれいにはききよめるのでした。